

立命館 災害復興支援室

瓦版

かわらばん

【第3号】 2012年1月27日発行

【立命館・遠野拠点後方支援プロジェクト】

春期休暇中（2・3月）

ボランティアバスを運行

立命館災害復興支援室では、昨年末には

クリスマスと年末年始期間にボランティアバスを運行し、東日本大震災以降、大学としての災害復興支援の取り組みのなかで連携を深めてきた岩手県に向け「後方支援スタッフ」（ボランティア）を派遣しました。

この取り組みの継続として、2月・3月も引き続きボランティアバスを運行します。復興に向け前進しようとする東北・被災地の方々を応援するため、立命館学生を対象に参加者を募集します。

2月・3月「後方支援スタッフ」実施概要【第3便】

2/5（日）夜出発 - 2/10（金）朝着
定員に達したため募集を終了しました。

【第4便】
2/19（日）夜出発 - 2/24（金）朝着

【第5便】
3/1（木）夜出発 - 3/6（火）朝着

【第6便】
3/22（木）夜出発 - 3/27（火）朝着

<場所>

岩手県遠野市、および岩手県中南部の沿岸地域を予定しています。（陸前高田市、気仙沼市、大槌町等）



<活動予定について>

車中泊・2泊、現地3泊の予定で、第3便では、岩手県遠野市文化課が実施する復興支援活動「三陸文化復興プロジェクト」（ ）に参加し、被災した学校図書館への献本や、公文書の修復に取り組み外、被災した自治体の教育委員会が実施する小中学

生の自習活動の支援ボランティアを行う予定です。
<詳細情報・エントリーについて>
第4便以降の活動予定は、現地組織との調整が完了次第、災害復興支援室HP等で随時公開する予定です。
参加申し込みは、災害復興支援室HPのエントリーフォームで受け付け中です。

立命館職員の参加も受け付けています。参加をご希望の方は、災害復興支援室までご相談ください。



（ ）三陸文化復興プロジェクト

岩手県遠野市文化課・遠野文化研究センターでは、被災した公立図書館や学校図書館を支援するため、広く「献本」と「支援金」を募っています。2011年6月2日の活動開始以来、24万冊の献本と500万円の支援金を集められています。復興支援スタッフ派遣第3便では、このプロジェクトへの参加を予定しています。

立命館災害復興支援室

facebookのご紹介

災害復興支援室では9月よりfacebookページを設置し、災害復興支援室HPやTwitterと連動し情報を発信しています。facebookアカウントをお持ちでない方もご覧いただけるページです。「いいね!」のクリックもお待ちしております。



12/16 - 17 大学間連携災害ボランティアネットワーク主催シンポジウムへ参加

12/16（金）-17（土）大学間連携災害ボランティアネットワーク主催のシンポジウム「東日本大震災と学生ボランティアの役割 - 大学間連携による取り組みとその課題 -」が東北学院大学土樋キャンパスで開催され、12/17のセッションに共通教育課福田さんが参加し、立命館における取り組みの報告を行いました。

この他、被災者の方々の声を聞くラウンドテーブルや、ボランティアに参加した学生による報告会、ポスターセッション・パネル展示もあり、立命館からもパネルの展示を行いました。

開催当日の様子は、東北学院大学のHPにも掲載されています。



12/22 日本学生支援機構主催セミナー参加報告

12/22（木）独立行政法人 日本学生支援機構による「防災と学生ボランティア支援セミナー」が開催され、立命館大学からサービスラーニングセンター山口洋典准教授、文学部長谷奈央さんにパネラーとしてご参加いただきました。

セミナーには、岩手県立大学や青山学院大学からもパネラー参加があり、ボランティア活動支援と防災教育、学生の人間成長支援という観点のもと、講演とパネルディスカッションが行われました。

<私たちの提案>進捗レポート
立命館守山中学・高等学校

南三陸町の仮設住宅で

ボランティア活動を実施

東日本大震災復興のための『私たちの提案 - 教職員の取り組み -』第2期採択プログラムのひとつである、立命館守山中学・高等学校「人のつながりを大切にしたい支援」（担当：八反和之教諭）の取り組みについてレポートが届きましたのでご紹介いたします。



高等学校3年生の有志メンバー総勢40名が、冬休み期間12/24夜から12/27に帰るの日程で、宮城県南三陸町でのボランティア活動に参加しました。

メンバーは現地の災害ボランティアセンターのコーディネートのもと、グループに分かれて瓦礫撤去作業や、仮設住宅の方々の大掃除のサポート、クリスマスカードの配布などに取り組みました。

活動の詳細レポートや写真は、立命館守山中学校・高等学校のHPに公開されています。

<http://www.ritsumei.ac.jp/nrc/news/2011/120110/news.html>



これからの主な取り組み

1/23-29 東日本・家族応援プロジェクト in 二本松2012（応用人間科学研究科）

「家族支援」「支援者支援」を目的としたセミナー・展示。これまで青森県むつ市、岩手県遠野市、福島県福島市でも開催。応用人間科学研究科HPに詳細情報あり。

2/1 連続フォーラム第一弾「震災から何を学ぶか-3.11から見た日本社会-」
産業社会学会主催。産業社会学部の教員・学生・院生による震災関連活動・研究の報告会を実施。16:00～場所は衣笠以学館5号教室。

2/4, 11, 18, 25, 26 連続ワークショップ【被災社会のための地域デザイン】
共通教育推進機構、および災害復興支援事務局の山口洋典准教授による実施。日常の問題としての防災・減災についての気づきの場を創出するワークショップを開催。

2/13-16 東日本大震災復興支援上映プロジェクト in 京都（映像学部）
京都造形芸術大学との共催。震災と向き合うことをテーマとした上映を予定。

<それぞれの取り組みの詳細については、今後HPや瓦版でお伝えします>

立命館では東日本大震災発生後、被災地域の大学からの支援要請など、緊急的・総合的に判断・対応が必要なものや、学生のボランティア活動、支援に関わる教員の教育・研究活動へのサポートなど、学内外の情報を整理し具体化していく必要性があると判断し、2011年4月21日に、「立命館災害復興支援室」を設置しています。

2/12 政策科学部・研究科
主催シンポジウム開催！！

2/12（日）15:00～政策科学部・研究科が主催、災害復興支援室が共催となり、「地域分散型 被災者支援を考える～南相馬市・桜井勝延市長、飯田市牧野光朗市長を迎えて～」を朱雀キャンパス1階多目的室で開催します。

東日本大震災は重大な原発事故を引き起こし、長期避難は被災自治体と受け入れ自治体にとってきわめて総合的・複合的な課題をつきつめました。被災自治体である南相馬市、被災者受け入れ自治体である長野県飯田市、京都府のそれぞれの実情や取り組みを交流することを通じて、被災者支援のあり方を考えていきます。

シンポジウムはどなたでもご参加いただけます。関心のある方はぜひ！詳しくは震災HPで御確認ください。

<http://www.ritsumei.ac.jp/file.jsp?id=51070>

1/25 立命館未来プロジェクト懇談会を開催しました。

東日本大震災関連特別検討プロジェクト・災害復興支援室では、震災後の大学全体の教育・研究の方向性について議論する懇談会を「立命館未来プロジェクト」と題し、2011年10月以降、これまでに6回のフォーラムを継続的に開催してきました。そしてこのたび、震災を受けてそれぞれが思う立命館の教育・研究の方向性について継続的に語り合っていくことで何かを生み出せるのではないかとの思いから、教職員による懇談の場を企画しました。

懇談会には約20名の教職員が参加され、これまでのフォーラムで講演された先生方の感想、震災をうけての教育者・研究者としての思い、災害復興支援の取り組みを通しての経験、現地活動を通して現地の方々とのふれあいや学内・校友の方々とのつながりに対する感謝など、話は尽きず予定時間を大幅に延長して行われました。様々な意見が出される中で、今後も同様のフォーラムや懇談の場を継続していくこと、被災地の方々とつながりを保ち続けていくことを共通にしました。

立命館未来プロジェクトでは引き続き、自然科学系・人文社会科学系および横断的な分野のテーマで継続的にフォーラムの開催を予定しています。
今回は2/13（月）13:30～の開催です！！



立命館 未来プロジェクト
第7回フォーラムのご案内

日時：2月13日（月）
13:30 - 17:30

テーマ：
「東日本大震災後の科学と技術 - 人間のための総合科学の構築をめざして -」
場所：
（BKC）サイエンスコア5階
第4会議室 メイン会場
（衣笠）敬学館251教室
TV 回線接続

編集後記

理工学部宗本先生の取り組み「仮設集会所建設プロジェクト-ODENSE（おでんせ）-」の吊広告を最近よく電車で見かけます。みなさんご覧になられましたか？この「おでんせ」という言葉、岩手で「いらっやい」という意味だそうです。建てられた集会所はきっとみんなの笑顔が集まる素敵な場所になることでしょう。方言って面白いですね。

立命館大学災害復興支援室瓦版【第3号】
発行人・編集 立命館災害復興支援室

075-813-8130（総合企画課内）
メール 311fukko@st.ritsumei.ac.jp